

編集後記

□ 昨年より水谷会長の体制の元、広報部副委員長と大役を任せて頂き、四苦八苦しながらも頑張っております。主にホームページの管理、三人行事の写真撮影を行っています。写真撮影をする際はホテルスタッフに間違われることもあり、雑用を頼まれることもあります。そんなハプニングもありながら、広報委員が開場前からカメラを構え、写真撮影を行っておりますので、暖かくお見守りください。(足立 徹)

□ またまた、おんぶにだっこで、編集委員を務めさせて頂きました。

雑誌の内容は、多種多様となり、テーマを絞った専門的学術内容となってきました。内容を熟読するのが楽しみされて下さい。

雑誌を通して会員の皆様の相互交流が一層深まることを期待します。(今村嘉宣)

□ 一年一年がとても速く感じられるのは私だけなのでしょう。

つい最近編集後記を書いたと思ったのは半年以上前のことだったようです。

事ほど左様に、時の流れが速く感じられます。

今年の特集は「生涯を通しての歯と口の健康」をメインテーマに、小児医療と老人医療から見えてくる健康志向を取り上げてみました。半世紀の時の隔たりは医療の進歩と同時に社会環境の変化や複雑さも感じさせます。担当くださった西野瑞穂フェロー、佐藤まゆみフェローには心から感謝申し上げます。(鏡 宣昭)

□ 第48巻第1号発刊にあたり今回初めて広報・編集委員長という立場で関わらせていただきました。未熟な中、鏡常任理事、井上理事のご指導の下委員の先生方のご協力を得て無事発刊にいたり感謝しております。今回生涯を通じての歯と口の健康にスポットをあて特別企画を組ませていただきました。

特に小児期の歯科の携わる分野は生涯の全身の健康に関与し、大きな意味の8020運動であり、高齢化社会を迎えるにあたり地域包括医療にもその根幹をなすと考えております。

社会の変化をとらえ、ICDの一員として日本のみならず国際的にも貢献できるように小さな努力を続けたいと思います。(田中康雅)

□ 一昨年よりICD入会后、すぐに広報・編集委員会に参加させていただきました。

実際の活動は、右も左も分からずひたすら会の様子を写真に収めさせていただきました。

出版に際し撮影した写真が誌面を飾り、多少なりとも役に立てたのかと胸をなでおろしております。

委員会もICDも一つ一つ出来ることを頑張っていきたいと思えます。(田中幹久)

□ 広報・編集委員会を担当して7年、今年も「日本部会雑誌」を無事発行出来ました。

皆様のご協力に感謝します。

「口は全身の入り口、もっと大事にしようよ！ 目を向けようよ!!」

日々の診療の中で子供たちに何度も発している言葉です。姿勢の悪い子供たち、スマホやゲームに夢中になっている若者たちの将来に不安を覚えます。

少しでも健康的で明るい未来にしていけるため、私たち大人は何をしたらいいのか、歯科医師として出来ることは何なのか…

同居している2歳と0歳 2人の孫の寝姿をみながら「子供たちを守っていかなければ…」と痛切に感じます。(井上 淳子)

□ 『勝ち組と負け組がありますが、皆さんはどちらですか?』と聞かれたら、皆さんはどう答えますか? ある先生は、こう答えました。『勝ち組・負け組とありますが、私は、価値組になりたいです。価値のある人間、価値のある歯科医師になりたい!』と…。頭が下がります。歯科業界に限らず、どの業界もまだまだ大変な時代です。だからこそ、やりがいがあり、成長するチャンスと考えています。私もICDの先生方を見習って『価値のある歯科医師』に少しでも近づくように精進して参ります。感謝を込めて…。(白壁浩之)

□ 超高齢社会に突入した現代では、「口から食べる」というキーワードをよく耳にするようになった。疾病構造が変化していることの象徴で、形態回復から機能回復へと対応の幅を拡充することが、我々歯科医師には期待されている。「口から食べる」だけでなく、「口から話す」、「口から笑う」などなど、すべきお仕事は山ほどある。(小野清一郎)